

海技協会報2025.7
VOL.

156

マリーン・ プロフェッショナル

Japan Marine Construction
Engineering Association



CONTENTS

VOL. 156

海技協会報

ページ

01 巻頭言 東北支部

- ・みなとまち・あおもり誕生と400年の歩み
一般社団法人日本海上起重技術協会 東北支部長
株式会社 細川産業 代表取締役 細川 英邦

04 協会活動

- ・第39回通常総会

10 会員寄稿「会員の広場」

北陸支部

- ・創業130周年
株式会社 加賀田組
新潟支店 土木部 中 島 亨

関東支部

- ・ルナフロー RA-200 のご紹介
岡畑興産株式会社 機能化学品事業部

14 会員作業船紹介 中国支部

- ・30m級・80t吊
グラブ浚渫船兼全旋回式起重機船「第01大新号」
大新土木 株式会社

19 海の匠「登録海上起重基幹技能者の紹介」シリーズ 沖縄支部

株式会社 屋部土建 宮城 裕信

20 マリーンニュース「事務局だより」

東北支部

- ・令和7年度 東北支部通常総会を開催

四国支部

- ・令和7年度 四国支部通常総会を開催

本部活動

- ・第110回理事会

本部からのお知らせ

- ・令和7年度 港湾功労者表彰 受賞者紹介

22 インフォメーション「お知らせコーナー・販売図書案内」

みなとまち・あおもり誕生と 400年の歩み

一般社団法人日本海上起重技術協会 東北支部長
株式会社 細川産業 代表取締役

細川 英邦



縄文の里、青森市。

この地に港が開けて、今年で400年を迎えました。

その歴史を振り返ってみましょう。

江戸時代初めまで、まだ「青森」は歴史上にその名を見せておらず、「外浜（そとのはま）」と呼ばれた地でした。

この地の新領主となった津軽氏にとっては、太平洋海運（東廻海運）の発展に対応可能な承認を育成することが必要でした。そこで、外浜地帯に新しい港町づくりを構想することになりました。

そして、1625年（寛永2年）5月15日、弘前藩第2代藩主「津軽信枚（つがるのぶひら）」は、津軽から江戸への廻船就航を許可する連署奉書を幕府年寄衆より拝領しました。このことが「開港の契機」と言われています。

翌年の1626年（寛永3年）4月6日、津軽信枚が

ら家臣の森山弥七郎へ黒印状が与えられるとともに地名を「青森」としてまちづくりが命じられ、青森のまちづくりが開始されたのです。

それから現在までは年表で紹介します。



津軽信枚画像（高野山遍照尊院蔵）

青森港 400 年～港と街をとりまく主な出来事～

1671 年 (寛文 11 年)	青森屋敷 (後の御仮屋=弘前藩主が来青した際の宿舎) が完成し、 青森町の姿が整う
1871 年 (明治 4 年)	青森県が誕生し青森町が県庁所在地になる
1873 年 (明治 6 年)	青森～函館間に蒸気船就航
1876 年 (明治 9 年)	7 月 16 日、東北・北海道巡幸で明治天皇が乗船した明治丸が青森港を出港し、 函館経由で 7 月 20 日、横浜港に到着 (海の日)
1891 年 (明治 24 年)	日本鉄道の上野～青森間全通
1898 年 (明治 31 年)	青森市制施行
1906 年 (明治 39 年)	青森港が特別輸出港となり、貿易港として開港指定
1907 年 (明治 40 年)	第 2 種重要港湾に指定
1908 年 (明治 41 年)	青函連絡船就航
1915 年 (大正 4 年)	築港第 1 期工事着工 (大正 13 年度完成)
1925 年 (大正 14 年)	鉄道係船岸壁での連絡船貨車航送を開始
1932 年 (昭和 7 年)	青森港第 2 期拡張工事着工 (昭和 18 年完成)
1945 年 (昭和 20 年)	青森大空襲で青函連絡船壊滅、
1951 年 (昭和 26 年)	重要港湾に指定。中央埠頭 3,000 トン岸壁着工 (昭和 30 年完成)
1970 年 (昭和 45 年)	フェリー基地着工 (昭和 50 年度完成)
1985 年 (昭和 60 年)	青森ベイブリッジ着工 (平成 6 年度完成)
1986 年 (昭和 61 年)	青森県観光物産館アスパム完成
1988 年 (昭和 63 年)	青函連絡船廃止。青函トンネル開通記念博覧会 (青函博) 開催
2003 年 (平成 15 年)	クルーズ岸壁完成
2010 年 (平成 22 年)	重点港湾に指定される。東北新幹線新青森駅開業
2019 年 (平成 元年)	青森港国際クルーズターミナル完成
2021 年 (令和 3 年)	現青森駅 (5 代目) 開業
2024 年 (令和 6 年)	海洋再生可能エネルギー発電施設等拠点港湾 (基地港湾) に指定

先人がこの地で育んできた伝統や文化を継承しつつ、その歴史を将来につなげる「今」を歴史の節目と捉え、青森市の街づくりに対する意識啓発を図りながら、官民が一体となった記念プロジェクトを行う事を目的に『みなとまち・あおもり誕生 400 年実行委員会』を設立し、2025 年を青森開港 400 年、2026 年を青森まちづくり 400 年として活動します。

その中心となるイベントが「Sea 級グルメ全国大会 in あおもり」です。

一昨年は沼津、昨年は境港で盛大に開催された Sea グルメ。青森でも大盛況に導きたいと日々準備を進めておりますが、何やら青森市の保健所がかなり厳しいようで、これまで開催地で提供できたメニューに制限がかかる可能性があります。

そのような事がないように準備してまいりますので、全国からたくさんの出展をお待ちしております。

そして会員の皆様も是非いらしてください!!

Sea 級グルメ全国大会 in あおもり

2025 年 9 月 27 日 (土)、28 日 (日) 開催



約340年前の青森町(弘前市立博物館蔵「青森町絵図」)



青森沖に浮かぶ御用船永徳丸(青森県立郷土館蔵「青森海上泛船船中眺望図」)



青函連絡船の貨車航送(1920年代・青森県史編さん資料)



青森築港(1929～30年代・青森県史編さん資料)



青函トンネル開通記念博覧会(1988年、青森県史編さん資料)



昨年の開催地、境港市役所HPより

第39回通常総会

第39回通常総会が5月12日(月)開催され、会員各位のご協力により各議案は原案どおり承認されました。総会終了後、功労者表彰式を行いました。その後、国土交通省大臣官房技術参事官 安部様による講演を頂き、夕刻から開催しました懇親会では、関係団体はじめ多くのご来賓の出席を頂き、和やかに懇談が行われました。



挨拶する寄神会長



総会開催状況



寄神会長と受賞者一同



講演会開催状況



懇親会で挨拶する
寄神会長



衆議院議員
宮内 秀樹 様



参議院議員
朝日 健太郎 様



国土交通省大臣官房技術参事官
安部 賢 様



水産庁漁港漁場整備部事業課長
の野 博行 様



乾杯を行う
日本港湾空港建設協会連合会会長
津田 修一 様



前衆議院議員
繁本 護 様



中締めを行う
清原副会長

◆第39回通常総会

一般社団法人日本海上起重技術協会は、去る5月12日(月)第39回通常総会を東京・ホテルルポール麹町において開催しました。

通常総会では、寄神会長から令和6年度会務報告をかねた挨拶があり、令和6年度事業報告、収支決算及び令和7年度事業計画、収支予算並びに役員改選について審議され、原案どおり承認されました。

◆第39回通常総会

- | | |
|---------|--|
| 1. 開催日時 | 令和7年5月12日(月) 15:00～ |
| 2. 開催場所 | ホテルルポール麹町(東京都千代田区平河町2-4-3) |
| 3. 総会議案 | 報告事項① 令和6年度事業報告の件
第1号議案 令和6年度収支決算の件
報告事項② 令和7年度事業計画の件
報告事項③ 令和7年度収支予算の件
第2号議案 役員の任期満了に伴う改選の件 |

上記議案のうち報告事項①～報告事項③の内容につきましては、「海技協ホームページ」の「海技協とは」の中の「8. 事業報告等」に掲載しておりますので、ご覧ください。

また、第2号議案にて、役員の任期満了に伴う改選が行われ、理事 藤田幸洋様、理事 尾崎憲祐様、理事 名嘉康悟様が退任され、新たに理事 平野雅也様、理事 堀松和彦様、理事 丸尾剛様が選任されました。その他の役員は再任されました。

なお、通常総会終了後に臨時理事会を開催し、会長に寄神茂之様、副会長に清原生郎様、濱谷美津男様、本間達郎様、佐野茂樹様、専務理事に富田幸晴が選任されました。

役員名簿(令和7年5月12日改選)

会 長	寄神 茂之	寄神建設(株)	名誉相談役
副会長	清原 生郎	関門港湾建設(株)	代表取締役社長
副会長	北海道支部長 濱谷 美津男	(株)濱谷建設	代表取締役会長
副会長	北陸支部長 本間 達郎	(株)本間組	代表取締役社長
副会長	中部支部長 佐野 茂樹	青木建設(株)	代表取締役社長
専務理事	富田 幸晴		
理 事	東北支部長 細川 英邦	(株)細川産業	代表取締役社長
理 事	関東支部長 鳥海 慎吾	(株)古川組	代表取締役社長
理 事	近畿支部長 寄神 裕佑	寄神建設(株)	代表取締役副社長
理 事	中国支部長 山本 静清	大新土木(株)	代表取締役副社長
理 事	四国支部長 平野 雅也	大旺新洋(株)	専務取締役
理 事	九州支部長 上野 世志史	(株)白海	会長
理 事	沖縄支部長 丸尾 剛	丸尾建設(株)	代表取締役

理 事	浅賀 雅彦	青木マリーン(株)	代表取締役社長
理 事	梅田 宜嗣	高砂建設(株)	代表取締役社長
理 事	卜部 友典	(株)谷村建設	代表取締役社長
理 事	岡本 清嗣	九州総合建設(株)	代表取締役
理 事	金津 任紀	カナツ技建工業(株)	代表取締役会長
理 事	坂 昭弘	勇建設(株)	代表取締役社長
理 事	清水 重輝	(株)清水組	取締役会長
理 事	菅原 博之	宮城建設(株)	代表取締役社長
理 事	壺阪 博昭	(株)吉田組	代表取締役社長
理 事	西川 晋司	(株)ソイルテクニカ	代表取締役社長
理 事	堀松 和彦	堀松建設工業(株)	代表取締役社長
理 事	増田 貴光	福丸建設(株)	代表取締役社長
理 事	松浦 泰隆	松浦企業(株)	代表取締役社長
理 事	村上 誠	村上建設(株)	代表取締役社長
理 事	山本 寿生	深田サルベージ建設(株)	代表取締役社長
監 事	黒子 政治	京浜港湾工事(株)	代表取締役社長
監 事	高橋 宏	三国屋建設(株)	代表取締役会長

注) 役員の役割毎の五十音順

■新役員紹介



理 事
大旺新洋(株)
専務取締役
平野 雅也 氏



理 事
丸尾建設(株)
代表取締役
丸尾 剛 氏



理 事
堀松建設工業(株)
代表取締役社長
堀松 和彦 氏

◆協会長表彰

令和7年度功労者表彰式が通常総会終了後行われ、寄神会長から感謝状、表彰状並びに副賞が授与されました。

●特別功労者（退任役員）

氏 名	所 属 会 社	経 歴
藤田 幸洋	藤建設（株）	理事・副会長（H15～R6） 常任委員（R3～R6）
野澤 良一	東洋建設（株）	専務理事（H30～R6）
尾崎 憲祐	大旺新洋（株）	理事（H29～R6）
名嘉 康悟	（株）屋部土建	理事（R3～R6）

●特別功労者（専門委員会委員）

氏 名	経 歴
比嘉 正克	常任委員会委員（R2～R6）
角 浩美	技術認定委員会委員長（R2～R6）
成田 満	技術委員会委員（H25～R6） 技術認定委員会委員（H25～R6） 登録海上起重基幹技能者講習講師（H23～H24）
三原 一憲	広報委員会委員長（R3～R6）

●会員会社の役職員表彰

支 部	氏 名	所 属 会 社	職 名
北海道	水澤 卓也	白鳥建設工業(株)	工事部次長
〃	福原 昭光	(株)菅原組	船長
〃	小野 浪夫	濱谷建設(株)	船団長
東 北	平塚 裕司	(株)丸本組	船団長
中 部	植濃 康雄	日本海工(株)名古屋支店	執行役員支店長
近 畿	岡田 康裕	寄神建設(株)	執行役員海洋部長
九 州	林田 孝春	(株)西海建設	土木工事部部長

●協会の常勤役職員表彰

協会表彰規程第6条及び就業規則第37条による業務精励功労者への表彰状贈呈者

氏 名	経 歴
鈴木 大吉	総務部長（H30～R6.8） 調査役（R6.9.1～R6.9.30）

（敬称略）



水澤 卓也 氏
白鳥建設工業(株)



福原 昭光 氏
(株)菅原組



小野 浪夫 氏
濱谷建設(株)



平塚 裕司 氏
(株)丸本組



植濃 康雄 氏
日本海工(株)名古屋支店



岡田 康裕 氏
寄神建設(株)



林田 孝春 氏
(株)西海建設

◆講演会

通常総会后、講演会を開催しました。

「港湾行政の動向について」

講師：国土交通省大臣官房技術参事官 安部 賢 様

令和7年度港湾局関係予算の概要や国会提出港湾局関係法律案のほか、港湾行政における最近の取組、港湾事業の実施における取組、作業船の保有水準の確保に向けた取組、工事安全などについて、分かり易いご説明で有意義な講演となりました。

◆懇親会

第39回通常総会及び講演会終了後、ホテルルポール麹町2階「ロイヤルクリスタル」において、多数の関係者を招き「懇親会」が行われました。

始めに寄神会長が「当協会は、昭和61年3月に設立以来、海洋工事業の振興と海上工事技術の向上を図り、港湾等の社会資本の整備や海洋開発の推進に貢献してきたと自負しております。そして今、カーボンニュートラルな社会を目指すわが国では、洋上風力発電の推進をはじめカーボンニュートラルポート政策が進められており、当協会の会員が保有する作業船、人材、そして、技術が今後とも必要であります。

国会議員の先生方、官公庁、関係団体の皆様方、そして、本日、ご出席されている会員の皆様方には、当協会の目的と役割をご理解いただき、今後とも、私ども協会へのご支援、ご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。」と挨拶されました。

次に、衆議院議員 宮内秀樹様、参議院議員 朝日健太郎様、国土交通省大臣官房技術参事官 安部賢様、水産庁漁港漁場整備部事業課長 的野博行様、からご祝辞をいただき、日本港湾空港建設協会連合会会長 津田修一様から乾杯のご発声をいただきました。

また、歓談中に前衆議院議員 繁本護様からご祝辞をいただき、最後に清原副会長の中締めで盛会のうちに閉会しました。

創業130周年

株式会社加賀田組

新潟支店 土木部 中 島 亨



令和7年、2025年加賀田組は創業130年を迎えました。地域の為に人々の為にという思いが新生加賀田が掲げる企業理念です。それは明治から大正、昭和、平成、令和と時代は変わっても決して変わらない私たちの原点です。その始まりは明治28年1895年の事でした。

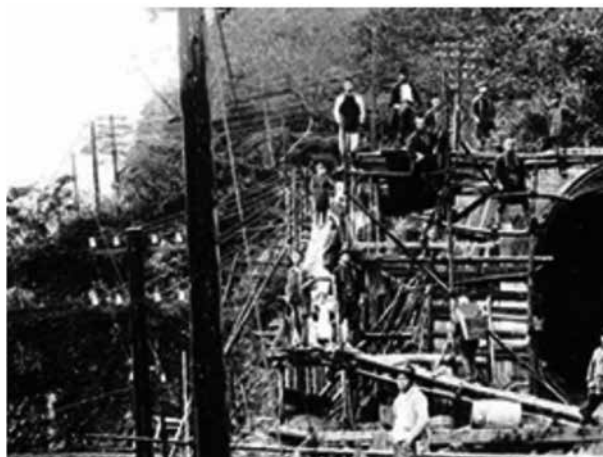
創業者加賀田勘一郎は17歳で現在の新潟市中央区本馬越で土木工事請負業を始めます。当時は5人ほどの小さな会社でした。最初に取り組んだ事業が亀田郷、栗ノ木川、鳥屋野潟などの治水工事。度重なる河川の氾濫や湿田耕作の苦労を目の当たりにし

てきた勘一郎は農民の為にという思いで心骨を削ります。それはまさに水との戦いでした。

亀田郷が大洪水の脅威から解放されるのは大正11年の大河津分水の通水と昭和8年の阿賀野川改修工事完成。そして昭和23年、東洋一の能力を誇る栗ノ木排水機場のモーターがうなりを上げてからの事でした。

栗ノ木排水機場は郷内の水を一齐にのみ込み始め、水田の平均水位は80センチも低下したそうです。このときから亀田郷は豊かな美田へ生まれ変わっていくのでした。

土木工事を基盤に実績を積み重ねてきた加賀田組にとって大きな転機が大正10年1921年に訪れ





ます。鉄道の新線建設の資格取得です。新潟駅の全面改装工事、鉄道局発注の工事など新たな事業へ乗り出します。常に新しい事へ挑戦する、その精神と先見性が会社を大きくしていきます。

加賀田組の歴史は新潟県の実業発展とともにありました。麒麟橋建設工事、新潟飛行場建設工事、各地域の小中学校建設工事、三代目新潟市役所建設、県庁建設など町の発展に欠かせない道路、橋、公共施設、学校建設を手がけインフラ整備に尽力してきました。

昭和39年の新潟地震では会社を挙げて復旧復興に尽力し、後の中越地震や中越沖地震においても当

局の要請によりいち早く被災地へ乗り込み昼夜を問わず復旧に当たりました。地域及び経済を活性化させる事業も積極的に行ってきました。

お客様の要望を上回る提案、それは一貫した加賀田組の姿勢です。その姿勢をかたくなに守る事が街を発展させ、それが地域のために人々の為になると私たちは考えます。

創業130年の間に事業展開も幅を広げました。会社の基礎である土木事業、地域のランドマークを造る建築事業、積み重ねた建築技術の継承と研鑽により人々の思いを大切にニーズを先取りした新たな価値を創造し、暮らしに最も身近な分野の設計や建物を提供しています。

インフラとして地域を支える舗道事業、そして新たな建設の可能性を模索する開発事業と総合建設業として加賀田組は進化を続けます。

おかげさまで130年、これからも私たち加賀田組はお客様の為と言う原点を誠実に追い求める企業であり続けます。

「やってくる時代に、何をつくろう。」



ルナフロー RA-200 のご紹介

岡畑興産株式会社 機能化学品事業部

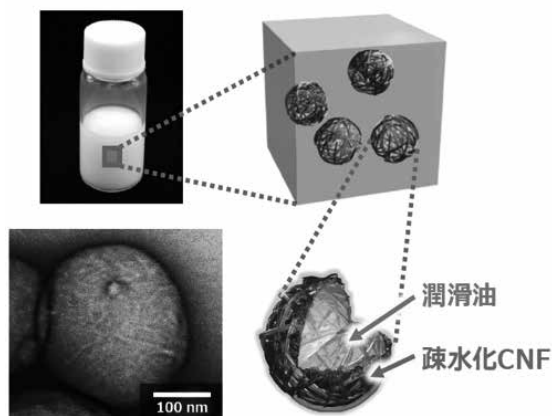
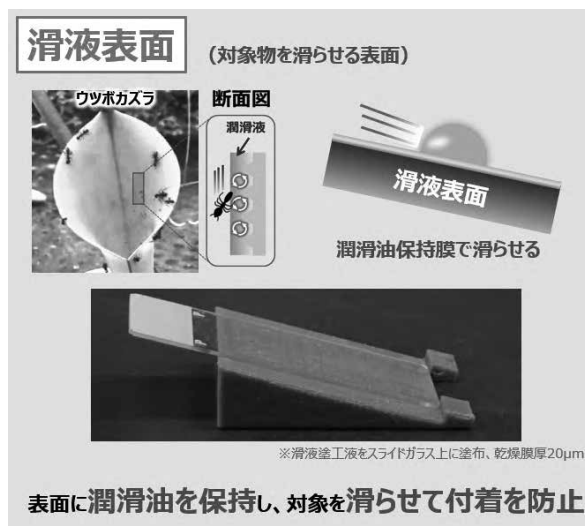
弊社、岡畑興産は、化学品とフットウェアを中心に、国内外の多様な原材料を取り扱う専門商社で、大阪・東京を拠点に、韓国・中国・台湾・インド・北米など海外にも展開しています。「化学品とフットウェアと、そのとなり。」をキーワードに、既存の枠にとらわれない柔軟な発想と提案力でお客様の課題解決に取り組んでいます。



なぜ、化学品とフットウェアの専門商社が海技協に？と思われるかもしれませんが、樹脂成型の離型剤(プラスチックの成型時に金型からの離れを良くする薬剤)が土木・建設・港湾工事分野へも展開できることがわかり、工事作業時のお困りごと解決のお役に立てるのではないかと考え、協会に入会させていただきました。土砂付着でお困りの方は必見の製品です！

今回ご紹介させていただく「ルナフロー RA-200」は、花王さんが開発したCNF（セルロースナノファイバー）を活用した水系の付着防止剤です。花王さん独

自技術でCNFの表面を疎水化し、潤滑成分を含ませることができるようになりました。食虫植物のウツボカズラ、そのツルツル滑る捕虫器の表面から着想を得た製品で、ルナフローを塗布することでツルツル滑る表面が手に入ります。



もともとは樹脂成型用の離型剤として開発された製品ですが、耐久性のある滑るコーティングにより土木浚渫工事における土砂や泥の付着防止にも優れた効果を発揮します。グラブバケット、トラックフレーム、ゴムクローラー内面などへ塗布することで、土砂の付着を大幅に抑制。弊社が行った実験では、最大90%の土砂付着削減が確認されており、清掃頻度の低減、作業効率の向上、工期短縮といった効果が期待できます。動画にまとめYoutubeで公開中ですので一度ご覧いただけますと幸いです。ルナフロー RA-200を塗布した場合、未塗布の場合での土砂付着の比較を行っております。



<https://youtu.be/KWiGeB-rjyY>

↑ 実験動画はこちら

バケットへの土砂付着量 50回掘削後



ルナフロー塗布済み



ルナフロー未塗布

また、完全水系・VOC(揮発性有機化合物)フリーであるため、作業や環境への負荷も少なく、安心してご使用いただけます。ご使用方法も対象物にスプレーし、乾かすだけ。特別な道具や手間を必要とせず、簡単にご使用いただけます。浚渫工事の用途では「環境配慮型浚渫工法」としてNETISにも登録済されています。(QSK-170001-A)

「ルナフロー RA-200」は、これまでにないアプローチで土砂付着の課題を解決する新しい選択肢となり得る製品です。ご興味をお持ちいただけましたら、詳細な資料のご提供やご訪問によるご説明、サンプルの送付も承っております。ぜひ一度、現場での効果をご評価いただければ幸いです。

【お問い合わせ先】

岡畑興産株式会社 機能化学品事業部

担当：佐藤・山口

Tell：080-3424-0833 / 080-4660-9063

E-mail：sato@okahata.co.jp

t-yamaguchi@okahata.co.jp

Webサイト：https://okahata.co.jp

30m³級・80 t 吊 グラブ浚渫船兼全旋回式起重機船 「第01大新号」



写真-1 「第01大新号」 全景

1. はじめに

高度な技術力や経済性が求められる港湾整備事業において、数多く採用され、海上工事に欠かせないグラブ浚渫船は、様々な施工条件に対応できる事が求められています。

これらより「第01大新号」は高精度で効率性の高いグラブ式浚渫船兼起重機船として建造しました。

また、気象・海象条件の厳しい海域での作業に於ける安全・施工・品質の確保、及び稼働率、福利厚生の実・充実・向上を目的に多くの最新技術を採用しています。

2. 主要諸元

2-1. 船体部寸法

長さ	(L O-A)	72.00m
	(L P-P)	65.00m
幅	(B MLD)	25.00m
深さ	(D MLD)	4.50m
クレーン	(SKK-30030GDT-K)	

2-2. 浚渫機仕様

・直巻能力	110 t
・巻上速度	0～55m /min
・巻下速度	0～80m /min
・ジブ長さ	28m
・旋回速度	0～1.2rpm



・最大浚渫深度	60m
・グラブバケット	
普通盤用	28m ³ ×72 t
硬土盤用	10m ³ ×90 t
幅広バケット	30m ³ ×65 t

3. 本船の特徴

3-1 施工性

【国内初の大型スパッドを採用(角型)】

船体は全長 72.0 m、幅 25.0 m、深さ 4.5 m、固定するスパッドは角型 1.8 m、長さ 40.0 mと従来より大きくしたことにより、厳しい気象海象や、大水深作業に適応する、高い安全性と施工能力を有します。



写真-2 固定・キックスパッド



写真-3 固定スパッド (□1,800×40m×2本)

【効率的な施工管理・品質管理】

高精度3Dソナー、施工管理システム、潮流潮位計を採用した事で効率的な品質管理を実現。

RTK-GPS、高精度3Dソナー、VBM (バーチャルブリッジモニター) による施工管理により、出来型や作業中のバケット管理をリアルタイムに表示することができます。

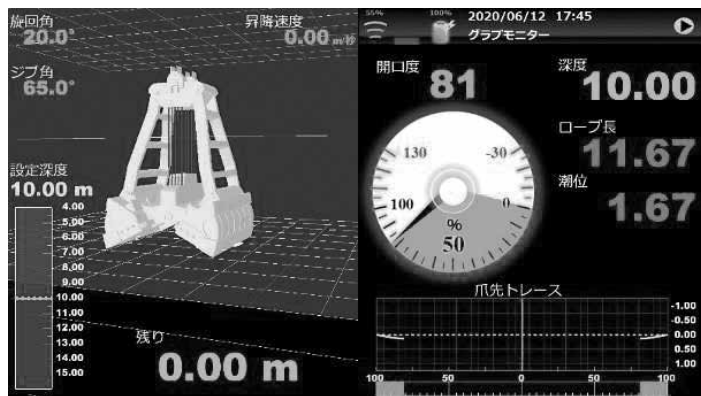


図1. VBM (バーチャルブリッジモニター)

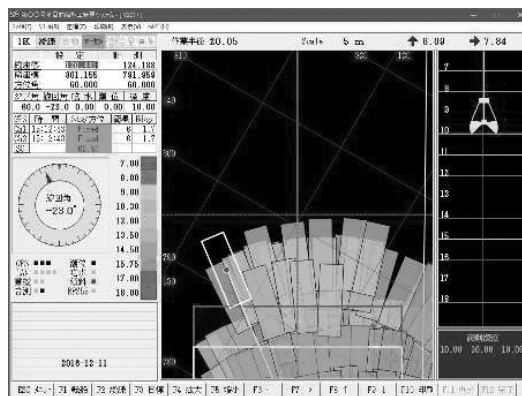


図2. 施工管理システム

・施工管理システムについて

高精度の位置 (RTK-GPS) 及び方位情報 (GPS コンパス) により浚渫船の位置を決定し、施工管理モニターに誘導画面を表示します。

また、重機 (クレーン) からジブ角度、旋回角度、バケット開閉信号を取り込み、自動的に掘削軌跡を画面上に記録します。



図3. 施工管理システム (3D描画)

会員作業船紹介

各機器装置類のリモート化により、操船室モニターで「見える化」を実現しました。



写真－４．操船室全景



写真－５．主発電機遠隔監視システム

【特許技術について】(幅広バケット余水装置)

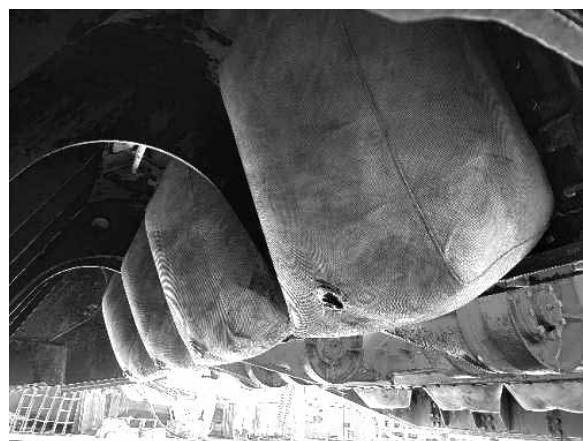
幅広バケットへ内蔵した樹脂製バルーンに空気または海水を注・排水し、バケット内余水の制御を可能にしました。

この度開発したバルーンは、取外しの必要性が無く、何時でも使用可能で常時収納できます。

内部の容量調整は、２段階調整方式を採用しています。



写真－６．バルーン施工状況



写真－７．バルーン膨張



写真－８．バルーン本体



写真－９．バルーン格納

3-2 環境性

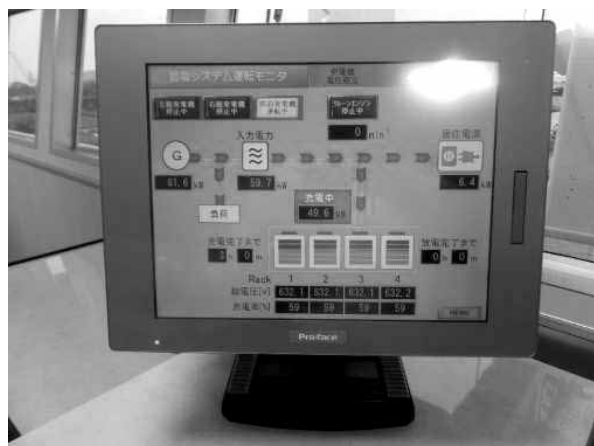
【ハイブリッド蓄電システムを搭載】

作業時に発電機の余剰電力を蓄電装置に蓄え、夜間の居住区内電力を全てまかなうことができます。

夜間は基本的に発電機を使用しない為、静粛性に優れ、排ガスと燃料の削減ができます。

使用電力によって異なりますが、10時間～12時間の使用が可能です。

リチウムイオンバッテリー搭載により、耐久年数は約20年となっています。



写真－10. 操船室蓄電モニターシステム



写真－11. 蓄電池設備 電源盤

3-3 安全性

【操作室監視モニターの設置】

作業時、甲板上のカメラ8台にてデッキ上の監視を行います。

夜間においては、センサーとカメラを一体化したシステムで人を感知でき、感知すると自動的に撮影・記録を行います。

回航時は、クレーン後部に設置した監視カメラにより、ブリッジにて曳航状況等の確認をすることができます。人が立入らなくても点検・確認が可能です。



写真－12. 操船室監視モニター



写真－13. 甲板用監視カメラ×8台



写真－14. 曳航用監視カメラ×1台

会員作業船紹介

3-4 居住性

会議室、食堂、厨房、喫煙室、フィットネス室、女性専用室等、十分なスペースを備えています。両手摺、緩勾配の階段、各船室はバリアフリーと Wi-Fi を備え、居住性の向上を実現しました。また、女性専用室にはバス・トイレ・冷蔵庫・洗濯機・防犯カメラを備えています。



写真-15. 女性専用室



写真-16. 大会議室

約20名での使用が可能です。
プロジェクターを設置しており、
リモートによる会議・打合せも可能です。



写真-17. フィットネス室



写真-18. 食堂

乗組員の船上での健康維持と促進のため、様々な器具を完備しています。

4. さいごに

第01大新号を建造する際、安全性・施工性・環境性・居住性の向上を目指して採用した新技術は、5年が経過した現在も、皆様より非常に良い評価を頂いております。

ハイブリッド蓄電システムを搭載することによって、燃料費や温室効果ガス排出の低減に取り組んでいます。

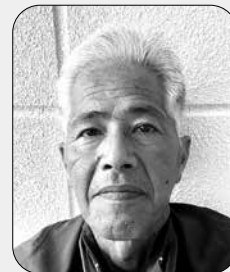
今後も更なる環境対策が必要です。再生可能エネルギー、脱炭素化エネルギーの使用も視野に入れながら、地球に優しい作業船を目指して、日々新しい技術を模索し、積極的に採用していく計画です。

環境性能に優れ、安心・安全・確実な施工を提供できる作業船で、港湾インフラの整備に貢献致します。

(記：船舶管理部 課長 住田 耕司)

大新グループ

株式会社 屋部土建 宮 城 裕 信



プロフィール

- 出身地 沖縄県 名護市
- 生年月日 1970年12月10日
- 職 責 海上工事部 部長
- 船 団 コンクリートミキサー船 「久護850」
起重機船 「久護250」(250t吊)

●経歴(資格取得)

- 平成 7 年 2 月 入社
- 平成27年12月 海上起重管理技士 取得
- 平成28年12月 登録海上起重基幹技能者 取得

●主要工事

- ・ 本部港（本部地区）防波堤（沖）
工事（H29-1-北振）（2018）
- ・ 渡名喜漁港第2沖防波堤改良工事（2020）
- ・ 渡嘉敷防波堤（南）災害復旧工事（2021）

●今後について

20年間、作業船の乗組員として海の現場に立ち、数々の制約がある中で創意工夫を凝らして作業に取り組んできました。

この貴重な経験を自身の糧とし、今後は建設業、特に海上工事が直面する人材不足と高齢化という課題に、正面から向き合いたいと考えております。

海上工事の重要性や、そのダイナミックな面白さを広く伝え、未来を担う人材の育成に、より一層力を注いでまいります。



コンクリートミキサー船「久護850」



起重機船「久護250」

マリンニュース 事務局だより

東北支部

◇令和7年度 東北支部通常総会を開催

第25回通常総会が令和7年6月10日（火）、仙台市の「ホテルモントレ仙台」において開催致しました。

会員27社中21社の出席、委任状提出6社を得て執り行いました。議案は全て原案通り承認されました。

また、総会終了後は繁本護氏講演会が開催され、終了後、港湾関係四協会合同による意見交換会が催されました。

総会次第

1. 開会
2. 支部長挨拶 支部長 細川 英邦
3. 来賓挨拶
東北地整 港湾空港部長 山本 貴弘 様
日本海上起重技術協会 会長 寄神 茂之 様

4. 議 事

議事については、事務局から内容について説明し、監事からの監査報告を受けて参加者全員の承認を得たところです。

議事説明内容

第1号議案 経過報告について

第2号議案 令和6年度収支決算報告及び
会計監査報告について

第3号議案 令和7年度事業計画（案）及び
予算（案）について

第4号議案 任期満了に伴う役員改選に
ついて

【報 告】 協会の人事について

5.本部活動報告

専務理事 富田 幸晴 様

6.閉会



四国支部

◇令和7年度四国支部通常総会を開催

令和7年5月8日(木)に通常総会を高知市のセリーズにおいて開催いたしました。

本部からは、寄神会長と富田専務理事にご臨席いただき全会員(委任状1)出席のもと、一号、二号、三号議案とも満場一致で承認されました。

総会後には、富田専務理事から本部活動報告、また、四国地方整備局高知港湾・空谷整備事務所の野本所長には「港湾関係事業の実施の取組みについて」講演をして頂きました。

新役員は以下のとおり

支部長 平野 雅也(大旺新洋(株))新
副支部長 辻 隆志(タチバナ工業(株))再
副支部長 吉村 文次((株)轟組)再
監事 中山 清暁(中山興業(株))再
監事 山本浩太郎(山本建設工業(株))新

このたび支部長を退任された尾崎憲祐氏におかれては10年もの永きにわたり支部活動を導いていただきましてありがとうございました。



本部活動

◇第110回理事会

第110回理事会は、当協会定款第32条第2項により書面による決議により行われました。

理事から議決権行使書を、また、監事から意見表明書をそれぞれいただき、各議案とも了承されました。

(令和7年4月21日付け)

第1号議案	令和6年度事業報告の件
第2号議案	令和6年度収支決算の件
第3号議案	その他議案の件

1. 協会長表彰候補者に関する件

◇令和7年度 港湾功労者表彰 受賞者紹介

令和7年5月28日(水)(公社)日本港湾協会主催の港湾功労者表彰式が那覇文化芸術劇場なは一と大劇場において執り行われました。

当協会からは、海技協総務部主任 本間久和子氏、(株)丸本組船舶部起重機船船団長 橋本勝也氏、深田サルベージ(株)技師補 三原昌司氏、南生建設(株)工事本部課長 假屋修一氏、寄神建設(株)土木部専任部長 豊田恭一郎氏の5名の方が受賞されました。誠にありがとうございます。



向かって左側から；
本間久和子氏、橋本勝也氏、三原昌司氏、假屋修一氏、(欠席)豊田恭一郎氏

●お知らせコーナー●

安全啓蒙ポスター 配布のお知らせ

毎年度「安全ポスター」を作成し、作業員一人一人の意識向上、啓蒙に役立つこと、及び海上起重作業船団の更なる安全運航に寄与することを願うものであります。

会員への配布

「安全ポスター」は、会員には5部配布し、また発注関係官公庁にも配布しております。なお、部数に余裕がありますので、追加配布を希望される会員は協会事務局へ申し出て下さい。



「安全ポスター」

「非自航船における居住設備ガイドライン」及びポスター配布のお知らせ

令和5年3月、一般社団法人日本埋立浚渫協会、日本港湾空港建設協会連合会、一般社団法人日本海上起重技術協会、全国浚渫業協会、一般社団法人日本潜水協会においては、港湾工事の実施に必要不可欠である作業船内における良好な居住設備を確保するため、「非自航船における居住設備ガイドライン」を策定しました。

本ガイドラインの着実な実施を通じて作業船乗組員の適正な就労環境を確保し、もって港湾工事に係る担い手の確保を推進していくものです。

会員への配布

「非自航船における居住設備ガイドライン」A4版の冊子及びポスターは、会員へにはそれぞれ1部配布していますが、部数に余裕がありますので希望される会員は事務局へ申し出て下さい。



「ポスター」

海技協ホームページ「会員専用ページ」の掲載事項（4月以降掲載分）

〔協会からのお知らせ〕

- 「令和6年度事業報告」
- 「令和6年度収支決算」
- 「第39回通常総会議案」(令和7年4月23日)

(注)会員専用ページは、随時更新していますのでご利用下さい。

「会員専用ページ」を開くためには「ユーザー名」と「パスワード」が必要です。当協会事務担当者にお尋ね下さい。

インフォメーション

海技協 販売図書案内

図 書 名	概 要	体 裁	発行年月	販売価格
作業船団の運航に伴う 環境保全対策マニュアル (改訂版) (国土交通省港湾局監修)	作業船団の運航に伴い自らが発生する排水等の環境阻害要因に対する方策を取りまとめたマニュアル 海洋汚染防止条約(マルポール条約)の付属書採択に伴う国内法の改正を反映 ・「港湾工事共通仕様書」に参考図書として記載	A4版 100ページ	平成30年4月	会 員 2,000 円 非会員 2,500 円 (消費税別、送料別)
作業船団安全運航指針 (改訂版) (国土交通省港湾局監修)	作業船団の安全な運航に対する安全衛生管理、操船、係留時等の安全対策及び作業船による架空送電線事故防止対策を取りまとめた指針 労働安全衛生法等の改正を反映、船員労働安全衛生規則に規定されている経験又は技能を要する危険作業に関する事項を新たに記載 ・「港湾工事共通仕様書」に参考図書として記載	A5版 200ページ	令和2年6月	会 員 2,000 円 非会員 2,500 円 (消費税別、送料別)

※購入は「図書名、部数、送付先、担当者、連絡先、請求書あて先」を記入した FAX 又はメールで、協会事務局へ申し込んで下さい。

FAX 番号：03-5640-9303

E-mail：honbu@kaigikyo.jp

マリン・プロフェッショナル
海技協会報2025.7 VOL.156

禁無断転載

発行日 令和7年7月

発行所 一般社団法人日本海上起重技術協会
広報委員会

〒103-0002

東京都中央区日本橋馬喰町1-3-8

ユースビル8F

TEL 03-5640-2941

FAX 03-5640-9303

印刷 株式会社 TBSグロウディア

一般社団法人 **日本海上起重技術協会**



本部	〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-3-8 ユースビル8F TEL 03(5640)2941 FAX 03(5640)9303 URL https://www.kaigikyo.jp/ E-mail honbu@kaigikyo.jp
北海道支部	〒060-0051 札幌市中央区南一条東2-2-5 SB大通東ビル9F (株)濱谷建設札幌営業所内 TEL 011-211-5222
東北支部	〒030-0821 青森市勝田2-23-12 (株)細川産業内 TEL 017(723)1451
関東支部	〒104-0044 東京都中央区明石町13-1 (株)古川組内 TEL 03(3541)3601
北陸支部	〒951-8650 新潟市中央区西湊町通三ノ町3300-3 (株)本間組内 TEL 025(229)8473
中部支部	〒413-0011 熱海市田原本町9-1 青木建設(株)内 TEL 0557(82)4181
近畿支部	〒652-0831 神戸市兵庫区七宮町2-1-1 寄神建設(株)内 TEL 078(681)3126
中国支部	〒737-0822 呉市築地町4-40 大新土木(株)内 TEL 0823(21)1470
四国支部	〒781-0112 高知市仁井田1625-2 大旺新洋(株)内 TEL 088(847)2112
九州支部	〒808-0021 北九州市若松区響町3-1-33 (株)白海内 TEL 093-751-0350
沖縄支部	〒900-0036 那覇市西2-11-12 1F 丸尾建設(株)那覇支店内 TEL 098-869-1617